

## 水産高校生のインターンシップ

全 域

9月13日から千葉県立銚子水産高校の生徒を対象とした漁業インターンシップが実施されました。同校の生徒5名(3年生1名、2年生1名、1年生3名)が、まき網および一本釣りの漁船に乗船し実際の操業を体験しました。

受入先は、**金野指導漁業士**の金丸(一本釣り)、**林定男青年漁業士**の林丸(まき網)、および銚子市漁協所属の伊東丸(まき網)です。

金丸での実習では、船酔いと戦いながらも無事にキンメダイ釣りを体験することができました。

林丸と伊東丸での実習は、台風の影響による荒天により、ともに陸上での網作業が中心となってしまいました。その後、天候がやや回復し、林丸はどうにか出漁することができたの



ですが、イワシの反応がなく、操業せずに帰港となってしまいました。

実習後の生徒の感想は次のとおりです。

キンメダイ釣り  
(金丸にて)



「楽しかったです」(林丸にて)

- ・1日目は船酔いがつらかったが、2日目は少し慣れたのでうまくできた。
- ・時化で船に乗れないのは残念だった。でも、網作業はおもしろかった。
- ・乗組員に銚子水産高校の先輩がいて、親しみやすかった。
- ・学校に行くよりもおもしろい。

漁業就業者の減少が続く中、将来の職業を選択する上で漁船での実習を自ら志願する若者はとても貴重な存在です。この貴重な若者たちに水産業の魅力を伝えていくために、今後とも漁業士の皆さんの活躍に期待したいと思います。

## 大型クラゲ混獲防除網の作製

銚 子

銚子市漁協小型底曳網部会・船長会では、(独)水産総合研究センター水産工学研究所と共同でエチゼンクラゲなどの大型クラゲ混獲防除網の作製に取り組んでいます。

同漁業の操業海域では、毎年11月下旬から翌年2月下旬にかけて大型クラゲの来遊が確認されています。年度によって来遊する量に変動はありますが、大量に入網した場合は、揚網不能による漁獲物の投棄、漁獲物とクラゲとの選別作業の増加による過重労働、また、クラゲの刺胞による漁獲物の損傷や手のかぶれなどの被害が問題となっています。

今年は例年になく発生量が多く、また、日本海側各地での来遊が昨年よりも1ヶ月程度早くなっているようです。



網の構造について検討

現在開発中の漁具は水産工学研究所が開発したものをベースにしていますが、小底船長会独自の改良を加えながら作製が行われています。

9月22日および10月1日に、水産工学研究所の実験水槽において網成りやクラゲ排出の様子(実際にはクラゲではなく水の入ったビニール袋を使用)を観察しました。約25名の漁業者が参加し、水中での網の様子を確認しながら実験を行い、参加者それぞれが改良点について話し合いました。

10月1日の実験では、その場でちょっとした工夫を加えることで網成りが格段に良好となり、船長会の経験と勘にもとづく発想の素晴らしさに感心させられました。

今後、当業船を使用し、実操業での使い勝手や、クラゲとともに排出が予想される漁獲対象魚種の逃避状況などの調査を実施予定です。



網成り等を確認(水工研にて)

## 海匠漁協青年部の鮮魚販売

## 海 匠

11月6日、旭市にある旭スポーツの森公園で開催された「第1回いきいき新旭市・市民まつり」において、海匠漁業協同組合青年部の刺網、しらうお、貝けたの各部会が合同で鮮魚等の販売を行いました。

各青年部では、漁獲物の付加価値を向上することで魚価を安定させることを最大の活動目標としています。そのために、自らが漁獲した海匠の地魚をより多くの消費者に知ってもらい、消費を拡大させたいと考えています。

刺網部会ではこれまでも直販事業に取り組む先進地への視察を行い、効果的な販売方法について検討してきました。そこで今回、イベントで試験的に販売を行い、今後の具体的な活動内容について検討することになりました。

祭りには農業、水産業、商業、工業など様々な分野から約30の出店があり、来場者数は約4万人でした。

各青年部がそれぞれ、水揚げされたばかりの新鮮なワタリガニやイセエビ、ヒラメを約20kg、サトウガイを約50kg、しらす加工品を200パック用意しましたが、午前10時の販売開始からわずか1時間半で全て売り切れとなり、大好評でした。

刺網部会では、海況等の影響により販売する魚を思うように揃えることができませんでしたが、同部会の遠藤部長は、「魚について消費者と直接会話することができて良かった。今回のようにイベントでの販売は初めての取り組みであり、苦労も多かったが色々と勉強になった。これからも魚価安定のために青年部活動を活発化させていきたい。」と語っていました。



鮮魚販売



開会式



サトウガイ販売

## ナガラミの移植放流

## 九十九里

九十九里貝類漁業者検討会では、ダンベイキサゴ(通称:ナガラミ)資源回復を目指し、県内他地域からの移植放流を実施しています。

11月23日に、海匠～白里の海域において約8.5トンを放流しました。

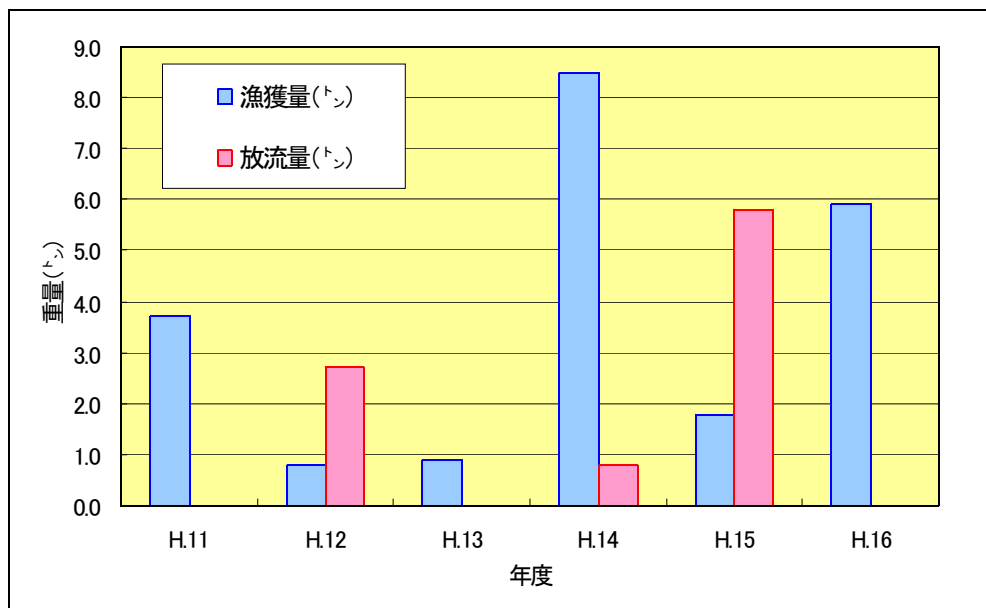
九十九里海域で漁獲されるナガラミは浜値が約1,500～3,000円/kgと高く、同海域で操業する漁業者にとって貴重な資源となっています。ですが、近年の漁獲量は0.8～8.5トンであり、右のグラフに示したとおり変動が大きく不安定となっています。

一方、鴨川市近辺のダンベイキサゴはサイズが小さく値段が安いので、地元の漁業者が漁獲することは殆どありませんでした。

そこで、同検討会では、鴨川市地域からナガラミを安く購入し、それを地先海域に放流することで資源量の増加を目指すことにしました。

平成12年度から移植放流を開始し、平成15年度までに約9.3トンを放流しました。

平成12年度には接着剤塗布による標識放流を実施しましたが、これまでのところ再捕報告はなく、残念ながら放流効果は不明です。ですが、同検討会では、資源の回復・安定化を目指し今後も移植放流を継続していくとのことです。



九十九里海域でのナガラミの漁獲量と放流量

ご意見・ご感想・その他掲載してほしい情報がありましたら銚子水産事務所改良普及課までご連絡ください。

連絡先 電話:0479-22-8397 FAX:0479-22-9167